



NEWS !

農業用地を取得し、土壤改善を始めました

藤田医科大学が所属する藤田学園では、大学隣接地に農業用地を借り入れ、今後「地域共生農園」として活用していきます。

写真は、センター長が執務をしている大学3号館の窓から撮影しました。大学敷地から道を隔てた2区画の農園です。3月に豊明市の農業委員会から農地使用の許可を受けました。その際、農地を農地以外の目的に転用する案件が多い中、藤田学園が農地として活用するのはたいへん素晴らしいとの意見が出たそうです。



解説

参加する人たちと作業の内容

4月に入り、休耕田を畑に変えるため、地域の農業者の方に手伝っていただき、水はけ改善のため粘土層を砕き、そこにマルチシートと呼ばれる黒色のプラスチックシートを張り、植え付けを開始する前の土壤改善を始めました。作業には、前回紹介したスマイルチームの障害者スタッフも参加して、右上の写真のようにきれいにシートを張り終えることができました。3か月ほど土壤の熟成を見守ります。

8月頃からの野菜を植えつけ、その後の収穫まで作業計画が少し具体化し、これから楽しみです。地域の人たちの支援と学内の様々な職員の参加で進めていきます。



ひと仕事終えて、一同、晴れやかな表情です。
藤田学園のスタッフはおしゃれの作業着です。
右端は、豊田市で自然農法を行う今枝雅加良さん。

ポイント

自然農法で始める

藤田学園の農園は、まだ始めたばかりですが、農薬や化学肥料をなるべく使わない自然農法を行う方針でスタートを切りました。環境への負荷を抑え、地下水や大気の汚染を少なくします。日々農作に従事する働く人にとっても、健康を損ねるリスクを減らすことができます。

藤田学園では、スマイルチームのスタッフにも作業に関わってもらう予定ですので、安全な職場の提供に努めていこうと考えています。

また、収穫物を食べる人にとっても、安心、安全な農作物として提供したいと考えています。

安心、安全だけではありません。実は、農園の取得と同時期にプランターでのハーブ栽培を学内のテラスで始めています。成長したイタリアンパセリを収穫して学内で関係者に提供したところ、強い風味で美味であったと好評でした。

今枝さんが来られた際には、当日朝にご自分の自然農法で栽培し、収穫したニンニクの芽と蕾(つぼみ)、玉ねぎなどの野菜を持参いただきました。ニンニクの蕾は、採れたてないと賞味しにくい、非常に珍しいものとのことでした。

ひと言メモ

自然農法とは？

自然農法は、化学肥料や農薬を使用せず、土壤の力を最大限に生かして作物を育てる栽培方法を言います。環境への負荷が少なく、土壤の微生物が活発になり、独特の風味と栄養が期待できます。

健康に育っている野菜ほど害虫がつきにくいと今枝さんから聞きました。私は、美味しい野菜ほど害虫がつきやすいと思っていたので、実際は、健康な人の強い免疫力と類似していると知り、驚きました。

連絡先

藤田医科大学 地域共生社会推進センター

センター長 堀江 裕

【事務局】 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 藤田医科大学2号館3階 学事部学事課
0562-93-9901 <https://www.fujita-hu.ac.jp/c-inclusive.html>